

■科目名			
学校教育相談 Introduction to School Counseling			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	教職理解科目	心理学	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
2	3期		前
■担当教員			
有倉 巴幸			
■代表教員名及び連絡先等			
yukura@edu.kagoshima-u.ac.jp			
■オフィスアワー			
水曜日5限（不在の場合は、連絡ください）			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
学校教育との関わりの中で、児童・生徒や保護者を正しく理解し、援助・支援する具体的な方法としてのカウンセリング技術を学びます。主に折衷的カウンセリングの立場から関係性の中での援助アプローチの実際を体験的に学んでいきます。			
■授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングについての基本的な知識を深める。 2. 他者や人間関係に関心をもつ。 3. 傾聴能力や対人関係スキルを身につける。（相手の話を聴き、正しく理解する能力、理解したことを自分の言葉で説明できる能力） 4. 個々の事例に対する理解を深め、多様な見方ができる。 5. 他者との関わりの中で、自己理解を深める。 			
■授業計画			
第1回 オリエンテーション、カウンセリングの基礎知識（講義）			
第2回 構成的グループエンカウンター（1）：伝える・伝わるについて			
第3回 構成的グループエンカウンター（2）：非言語コミュニケーションについて			
第4回 構成的グループエンカウンター（3）：信頼について			
第5回 構成的グループエンカウンター（4）：再述・言い換えについて			
第6回 カウンセリング場面の鑑賞（1）：担任による教育相談場面（動画鑑賞）			
第7回 カウンセリング場面の鑑賞（2）：悩みを訴えてきた生徒への対応場面（動画鑑賞）			
第8回 ロールプレイ実習（1）：紙上練習			
第9回 ロールプレイ実習（2）：相談相手との位置関係の影響			
第10回 ロールプレイ実習（3）：視線や姿勢の影響			
第11回 ロールプレイ実習（4）：傾き、相槌などの影響			
第12回 事例研究法（1）：コメントやアドバイスについて考える			
第13回 事例研究法（2）：リソースについて考える			
第14回 事例研究法（3）：不登校事例や仲間関係事例			
第15回 学校現場でのカウンセリングと倫理的問題（講義）			
■授業外学習（予習・復習）			
各回の授業後に、manabaにて活動のふりかえりをしてください（各回60分）。それに基づいて、3回のレポートを課します。			
■受講要件			
少人数クラス指定（国語・音楽専修）であるので、指定外のコマは受講を認めない。指定された期に受講しない場合や受講を放棄した場合は次期の受講に関して多くの制限が生じることになるので注意すること。			
■成績の評価基準			
本授業で指定する3回のレポートによって評価します（レポート評価45点；学修目標1、4、5）。また、本授業は体験活動を主とするものなので、4回以上の欠席は放棄扱いとします。遅刻や3回以下の欠席もこれらの体験活動が制限されるので、評価に反映させます（活動評価55点；学修目標1～5）。			
■教科書・参考書			
必要な資料は、印刷物及びpdfで配布する。			

教科書：本授業では指定せず、必要に応じて提示する。

参考書：河村茂雄（著） 学級経営に活かすカウンセリングワークブック 金子書房、2006年

■教師としての資質能力に関するチェック項目

7. コミュニケーション力

【B連携協働力、自己改善力の育成】他者とのかかわりや適切なコミュニケーションの在り方について基本的な理解を深め、自らそれを実践することができる

8. 自己改善力

【B連携協働力、自己改善力の育成】自らの課題を発見し、解決に向けた具体的な方法を企画・実践するとともに、結果を省察して改善につなげることができる

10. カウンセリングに関する理解

【C学習者理解】カウンセリングや教育相談についての基礎的な知識を身に付けており、それらの知識を学習者理解に活かすことができる

アクティブ・ラーニング

グループ・ディスカッション；

振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他）

ロールプレイ 構成的グループエンカウンター

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他